

2019年1月7日

各位

JXTGホールディングス株式会社

## 会長・社長年頭挨拶について

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

本日、JXTGホールディングス本社(東京都千代田区)にて行われました、当社会長 内田 幸雄および社長 杉森 務のグループ社員に向けた「年頭挨拶(要旨)」を下記の通りお知らせいたします。

### 記

#### <会長 内田 幸雄 年頭挨拶>

##### 1. 2018年の振り返り

###### (1)国内外の情勢

経済情勢について、昨年前半は好調な米国経済と国内企業の収益と雇用情勢の改善により、堅調に推移した。後半からは米中貿易摩擦など世界経済の減速懸念が強まり、国内外の今後の経済情勢は楽観視できない。

国内においては、各地で発生した自然災害が大きな影響を及ぼし、近年増加傾向にある自然災害への備えの大切さを改めて痛感した。また、企業・組織の信頼失墜や社会不安を招く不祥事が数多く発生した。多くの不祥事の根底には業務の適正さ確保する仕組の欠如があり、具体的な原因究明と再発防止策の実行、そして、一人ひとりのコンプライアンス意識の大切さを再確認した一年であった。

###### (2)JXTGグループの概況

昨年は、統合会社として企業活動をするうえでの経営基盤の強化が着実に進んだ一年となった。

当社は、コーポレートガバナンスをさらに充実させることを目的として、6月に監査等委員会設置会社へ移行した。併せて、内部統制システムの整備・運用や2020年稼働予定の統合基幹業務システム(ERP)の準備も順調に進めている。

また、統合後の一つひとつの取り組みが実を結びはじめ、外部からの評価につながってきた。グループのESG経営方針が評価され、国際的なESG投資インデックスの構成銘柄に初めて選定されたり、収益力向上および財務基盤の強化が評価され、国内の当社格付けが改善するなどの動きがあった。

##### 2. 持続的な企業価値向上に向けて

JXTGグループの使命は、エネルギー・資源・素材における創造と革新を通じて、社会の発展と活力ある未来づくりに貢献することにある。この使命の実現に向けて、大切なことを2点申し上げる。

###### (1)「ステークホルダーを意識した経営」

私たちは社会の一員であり、様々なステークホルダーの皆様に支えられて事業を行っているということを社員一人ひとりが常に意識してほしい。

## (2)「安全とコンプライアンス」

ひとたび、重大事故や不祥事で社会からの信頼を失えば、その信頼を回復することは容易ではない。企業存続の大前提として、「安全とコンプライアンス」を徹底してほしい。

## 3. 従業員へのメッセージ

企業として企業価値を向上し、存続し続けるためには、果敢に挑戦していかなければならない。そのために、「変革し続けること」と「健康」について願う。

### (1)「変革し続けること」

現在、「変革を推進する風土」を醸成するため、グループ内で様々な取り組みを進めている。今後も、業務の意味や目的、必要性をよく考え、これまでの考え方や働き方に思い切って切り込んで、変革してほしい。

### (2)「健康」

当社グループでは、安全・環境と並び、健康に対する取り組みを理念に掲げている。健全な活動を行い、果敢に挑戦していくためには、一人ひとりの心身が健全であることが不可欠となる。いつ、いかなるときも「健やかで、やり甲斐、働き甲斐、生き甲斐」に溢れていてほしいと願っている。

今年は、第1次中期経営計画(中計)の最終年度であり、いわば節目の年でもある。「統合モードから、たゆまぬ変革モードへ、そして持続的成長モードへ」と前進することが大切である。グループ一丸となって、一つひとつの目標を確実にクリアし、着実に歩みを進めていく年にしよう。

## <社長 杉森 務 年頭挨拶>

### 1. 2018年の振り返り(当社グループを取り巻く事業環境)

米中貿易摩擦やイランへの経済制裁再発動など、米国第一主義政策による世界経済の不確実性の高まりを受け、資源価格は不安定な動きをしている。一方、SDGsやパリ協定などの国際合意によって、持続可能な社会の実現に向けた動きやAI・IoTといった先端技術の進化は加速しており、10年先、20年先の社会のありようは、劇的に変化するものと思われる。

このように、当社グループを取り巻く事業環境は、「不確実性」と「劇的な変化」の真っ只中にある。いかなる環境であっても勝ち残るために必要となる強靱な経営基盤の構築には、まだまだ乗り越えるべき課題が多くある。

### 2. 2019年の経営課題

#### (1)JXTGグループ全体

2019年の経営課題は、「第1次中計の達成」、「長期ビジョンと第2次中計(2020~2022年度)の策定」、「ESGへの取り組み」である。

今年は、第1次中計の最終年度であり、いかに事業環境が変わろうとも経営目標は必ず達成する。

そして、長期ビジョンにおいて2030年、2040年に向けた道筋を具体化するとともに、さらなる飛躍を目指し、第2次中計を策定する。

ESG(環境・社会・ガバナンス)の取り組みは、企業が事業環境の変化に柔軟に対応し、持続的な成長を果た

していくための絶対条件と捉えており、一層強化していく。

これらの経営課題は、ホールディングスと事業会社が一体となって取り組んでこそ成果が得られるものであり、グループ各社は着実に上記経営課題解決に向けた取り組みを進めてほしい。

## (2) エネルギー事業

エネルギー業界のリーディングカンパニーとしての圧倒的な優位性の確立に向け、統合シナジーを最大化するとともに、効率改善と国際競争力の向上を図る必要がある。そのうえで、次世代の柱として、電気・ガス小売事業や海外事業の育成、機能材・潤滑油などの技術立脚型事業の拡大は不可欠である。また、水素事業や再生可能エネルギー事業は、持続可能な社会の実現につながる事業として、推進していく必要がある。

## (3) 石油・天然ガス開発事業

低油価耐性を確保し、開発事業から得られるキャッシュフローの範囲で必要な投資を実行できる自律的な財務構造の構築に向け、地域性を考慮したプロジェクトの選択と集中、操業コストの削減に取り組む必要がある。また、技術面では、CO<sub>2</sub>-EOR技術の育成が鍵となる。油田での増産効果に加え、CO<sub>2</sub>の排出抑制に貢献するものであり、社会との共存共栄の観点からも重要である。

## (4) 金属事業

効率化の徹底によるカセロネス事業の収益力強化とAI・IoT技術の進展により需要拡大が期待される電材加工事業の育成・強化を推進する必要がある。

さらに、持続可能な社会に向けて、ゼロエミッションを志向した環境リサイクル事業のさらなる効率的操業が重要である。

## 3. 従業員へのメッセージ

「不確実性」と「劇的な変化」の時代を乗り切るためには、現在の延長線上ではない2040年を見据え、ありがたい姿に向かって、社員一人ひとりが具体的に行動に移す必要がある。統合後、様々な改革を行ってきたが、これからがまさに変革の始まりであり、この変革を支えるものが対話である。JXTGグループ全員が団結してこそ変革への大きな力となる。団結は強い信頼関係から生まれ、そして信頼は日ごろの対話から生まれる。この変革、対話、信頼をもって、新しい時代に挑戦する気概を常にもってほしい。

我々経営陣は、率先して、変革に向けた行動を起こしていく。従業員の皆さんにも、一人ひとりが変革の主人公であるという矜持を持って、業務に精励してほしい。役員・従業員で団結して、社会とともに発展し、活力ある未来を創り上げていこう。

以上